

- 数と計算の意味では、万の位の理解、不等号の利用、加法、減法の性質を計算にかかす、余りの意味の理解。
- 図形では、二等辺三角形、正三角形の理解、円のまわりと直径の関係の理解、球の直径の理解。
- 数量関係では、対応する値の組を表にまとめる、数量関係を公式の形に表わす、□、△などを用いた式に表わす、式の□や△にあてはまる数をもとめる。資料を分類、整理する、折れ線グラフを読む。

② 4年の場合

- 数と計算の意味では、億、兆などの単位の理解、概数が用いられる場合の理解、概数をつくる、計算過程の計算法則の理解、約分の理解、小数の四則を適用した問題を解く。
- 数量関係では、変化を折れ線グラフに表わす、等式の性質の理解、公式の考え方の理解と利用、二つの事がらの起こる場合の落ちや重なりをしらべる、集合の関係を表わす記号 \cap の理解。
- 計算では、乗数が整数の場合の小数の乗法計算、除数が整数の場合の小数の除法計算、同分母の分数の加法計算と減法計算、同分母の分数の加法、減法の混合計算。
- 量と測定では、面積測定の意味の理解、体積測定の意味の理解、立方体、直方体の体積を求める、容積の理解。
- 図形では、平行、垂直の理解、平行線と一直線でできる角の関係の理解、合同の概念の理解、三角形がきまるという意味の理解、台形、平行四辺形の理解、直線、平面の平行、垂直の理解、空間における位置の表わし方の理解。

(3) 高学年について

① 5年の場合

- 数と計算の意味では、観点をきめて整数を類別すること、倍数・約数を集合として

みること、商を分数で表わすこと、概数の積・商の処理のしかたの理解、整数・小数・分数の相互関係の理解、同じ大きさの分数の集合づくりの理解、割合についての理解。

- 計算では、乗数が整数の場合の分数の乗法計算、除数が整数の場合の分数の除法計算。
- 図形では、三角形の内角の和や求積をもとに他の図形を考えること、包摂関係に着目した基本的な図形の理解、円周率の意味の理解、円をもとにして正多角形をかくこと、対応点をもとにして対称な図形を見分ける。
- 量と測定では、測定値の処理方法として平均などの理解、面積や体積を概測すること、平行四辺形や台形の求積の理解、多角形の面積を三角形などに分けて求めること、円の面積を公式をつかって求めること、単量あたりの考え方をを用いること、速さの計算。
- 数量関係では、式で二つの数量関係をとらえること、文字を用いて式を表わすこと、文字にあてはまる値を求めること、百分率と歩合の意味の理解、小数、分数と百分率、歩合の相互関係の理解、問題解決の場で、百分率、歩合を用いること、以上、未満の理解、資料から全体の傾向を推計すること、円グラフや帯グラフの理解。

② 6年の場合

資料不足のため比較対象外とする。

3 比較できる指導内容の問題概略

(1) 低学年について

① 1年の場合

- 数える

とんで	いる	つばめと	とま
っている	つばめが	います。	